

第 251 回市民医学講座

平成 6 年 2 月 17 日 (木)

仙台市太白区役所

5 階ホール

花粉症

こわた耳鼻咽喉科医院院長

古和田勲

花粉症でも、杉のそれは現在では花粉情報が提供されるようになり、この点は昨年の本講座で柴原義博先生が述べている。

そこで今回は、鼻の機能に次いでアレルギーの歴史と鼻アレルギーの歴史をはじめに説明し、アレルギー・マーチにおける花粉症の発症について概説した。

本邦とスギの関係については、河田 杰氏の「森林生態学講義」(昭和 7 年)と遠山富太郎氏の「杉のきた道」(昭和 51 年)を参照とした。

対策のうち薬物については、実際の抗ヒスタミン剤・抗アレルギー剤それぞれの特徴と副作用、局所剤と大衆薬各々の使用上の注意を述べた。いずれを用いても効果なく、いわゆる薬効への落ちこぼれには漢方薬は有効であり、ビデオで示した。

なお杉花粉の飛散よりも早い冬期には、老人や寒虚のタイプの人には就眠時も電気毛布等の使用者が多いが、この人達は水性鼻汁過多の鼻アレルギーとは反対に、乾燥性上気道炎にて痂皮を生じる例が多い。杉花粉よりさらに今日的現象と考え追加した。